



石門

心學子道乃話

四篇

中

9
3895
11



門 9  
號 3895  
卷 11

心學道之話四編卷之中



月影乃のくぬ里きあをれど誦むる人けりるも  
さしとぬたひふ。つづきの道へ。あこんども  
其のあやゆを助くるしう外小仕中へおいごころと  
たすろくそんると孫陀此光ぬが布ら下るる。我  
即孫陀の光明ある由へ。あまを入我我入機法一俤も  
之に又孫陀同体乃悟をほるともいつてその方その候  
の浪佛トや又維であらふともあゆまぬと助くれ形  
害のく乃助くるも何所一助くるぬと  
るつうけり。たさくりぬてありまするその助くる

心學道之話 卷中

四編 十一

早稲田大學圖書館  
昭和 27.6.16 贈  
藏書

形事とむり右田の兼好法師はきくぐまとの  
 書物の中にも書ておくまきし。それをちよとあ  
 一やまうせふが。ゆづその文云ハ龍出に何ガ一乃押  
 領司おんどのやうあるものありけるか。お月経を  
 よろづぶ。ゆづの茶あうとしておぼろに二つづ焼て  
 捨けるくと年久しくうね式時鐘のうらに人も  
 ゆうりある鐘とさうりて歌おをひまう。かの押領司  
 と責かともみけるに鐘のうらわ。はよりの二人出来て  
 命と惜まぬ。たぐひて。なる遊之とけり。つとあ名  
 候と覚て目録した。その一のふもるぬ人々

のたぐひ一捨ふのうらある人をも同けき。年以の  
 て初まぐりつるお月経らうてさむらうとらひ  
 る美しけり。トとまきせがき好法師の傳り。わうけ  
 られと。たぐをかしで玉捨ありぐと。さ味のつる  
 結でゆきありまにが。それうも亦その文の續はあ  
 く伝と。うらぬまがかる徳もありけること。と云  
 志か一の一句がそくてゆきありまにが。あれがやとん  
 世一葉の眼目おむら玉捨大切の様でゆきありまに  
 ちりしうぐけ文云ハか中うに續どなるうりてハ女中  
 方や子儀成の耳ハチトつううのよとらつて是と

終りたるやうに一とありてはさうしんつてせしむ。
 ちがはれぬはふし中ハ九州九ヶ國の惣名でせしむ。
 其の九州ハ後であつてさう肥前であつてさう
 日向大隅も所ハ後と何所と中にさうもさう
 せぬとんくもはさうそのあゝくも何とてさう
 やらむ一押領司あといふやうなものが居るに
 ともものや中押領司と中ハ昔その土地と百石
 もせよ二百石もせよ。さうかて賣つてさう
 ともが領分とて何れ自由あうさうして居る人
 のみでせしむ。さういふ人がてさうとマアさういふ

る安んおらうとてはて居る人であつてさう
 つてさう正徳の人であつてさういふとて
 ちとややとち大根とてさう富う。さうと
 まの土乃つとと大根と二ヶづ焼て喰ハ人の
 此ともさういけらうる菜おさるさういふ
 初く二ヶづ焼て喰をさういふが中く一年や
 二年のまてはさうとてさういふが後さういふ
 此もいふさういふさういふさういふ
 さういふとてさういふさういふさういふ
 乃内ハさういふとてさういふさういふ

何所ぞくかてけまゝにそらうで廣い銀にかの旦那殿  
 づたつて一人ぬちをいとして飛ぶるるるるるる然に  
 八方より歌があらうるるるるるるかの人乃やうと成  
 月うけ押し出する。けしれたまきバかの人も是れと  
 舞つれぬえ懐しとけうととら歌ハおんこく  
 貴のうかの人と。おつらう中れサアくそらとれ  
 命とあらうと若後一度は打てかれバかの人も  
 ろとぞくおりのいカ何うとけ傷いてもらうるるるる  
 何とつても多勢に必勝。けし歌ハ絶ふせしれ  
 改し命もあやうれととら不忠信あらうるるる後乃

内小悪襲束しと丈の男が。たらたら二人あら  
 くれ出ぬふせや飛ぶ歌を押しけその中へまけ入  
 て。かの人とうしとらたかとい前小大勢の歌といと  
 うけ我身の切らるるも。いとまに命を捨てかの人と歌  
 げんと必死にやうと傷さまたぬぬ歌も。あまとい  
 たやうらうの勝乃子とらうた中うれ八方へ逃らうま  
 しとまやぞとてか押飲可ハ不忠信を命とまの  
 二人の兵。たまけらきとまの也ねむくとあうが  
 うがう涙と。わんてまといとてか二人へつれやた  
 ねハ只今とらうらたも大勢の歌といとまきすてふ



いふに信心ししといふても大根がその中におて候し  
 れは仕事もあつたもの。そんなうゝ又善好法師が法華  
 經のてきまゝとて。とていふて候てござうませよ。ちや  
 不實うらて候らうとせ。あうゝお中候とけ  
 西席の候。候。さればどうも合意がゆかね。なん不  
 信心の極といひても大根がでて候らうとて。はらん  
 ず。きあうゝあやうゝ。いふゝとやとさひあさ  
 るふらぐいあるまゝ。あうゝや何いも。あめあさ  
 てもあやうゝいふても何うや仕せぬのトや。らまは  
 早急あまうゝさん方やれおかけ。天窓のてら。らんうゝ

足の凡されまゝでせよ。いふも。天の光明に。いつはま  
 きをわけられ。いふ。候と。どうぞ。候てやうとて  
 又善好法師の老婢。候。切う。作う。り。よ。け。ま。た  
 と。を。ま。う。で。何。も。じ。り。正。ま。あ。つ。さ。る。ま。あ。い  
 りと。足。く。ま。ん。ら。ま。と。い。ふ。ま。是。が。正。ま。に。あ。つ。さ。る。ま。で。何。ぞ  
 候。と。と。候。候。でも。何。も。あ。い。ま。先。世。文。の。書。く。ま。あ。い  
 候。業。の。因。乃。肥。後。あ。い。れ。及。と。り。薩。摩。う。ら。薩。大。と  
 う。の。何。那。の。何。村。何。耐。何。系。と。い。ふ。押。領。司。が。あ。つ。て  
 と。候。あ。つ。う。り。と。書。て。何。う。さ。う。な。ま。の。ト。や。が。正。実  
 に。あ。つ。さ。る。ま。で。い。ふ。ま。の。飯。乃。た。と。と。を。何。の。候。候。は

只はくしに。とつめてあるをうりて。何所と。とつたり  
 とつてもちく。世のうそその人此名も誰と。きやう  
 とるもあつる。あつた。何某の押領司なんどの。根  
 かりの。と。をうりつめてある。さうする。と。そのはく  
 一の園乃押領司なんどの。つち中うある。そのとい。全  
 休マア誰が。みであらう。そりややつらう。今日乃  
 若さんぐ。や。こ。く。ホ。グ。み。ト。や。か。う。つ。よ。も。う。  
 がいの。深い。人。の。テ。ナ。それ。は。ど。よ。も。合。点。が。ゆ。ら。ぬ。お。れ。お。  
 が。方。の。終。つ。て。な。も。その。中。う。に。款。の。せ。り。よ。せ。こ。る。ゆ。も  
 ち。い。が。大。根。が。あ。つ。て。こ。る。こ。る。つ。こ。る。み。な。ど。ハ。後。よ。み。こ。

事もおつ。おのひうさう。う。が。それ。が。やつ。を。り。カ。ノ。う。ら  
 く。の。か。う。げ。ト。や。ワ。コ。デ。な。お。兼。好。法。師。が。深。く。信。と。つ。て  
 一。ね。ま。か。る。極。も。あ。り。ける。に。し。そ。と。深。切。よ。あ。り。  
 此。辞。と。そ。く。ら。ま。し。と。お。お。さん。ぐ。と。でも。こ。ら。と。く。  
 ても。深。く。身。前。た。ら。及。つ。て。信。び。し。て。見。ま。れる。と。さ  
 う。つ。ち。中。う。る。奇。物。ハ。時。刻。小。あ。る。ゆ。で。ご。さ。う。や。ら  
 その。次。ハ。誰。が。乃。う。く。も。物。り。映。す。で。右。の。や。う  
 小。命。と。な。よ。来。る。か。と。記。が。幾。等。何。の。や。う。妙。ま。や。せん。が  
 その。お。そ。ろ。し。の。款。乃。内。ふ。ま。づ。一。巻。の。れ。そ。ら。し。大。款  
 と。つ。よ。もの。が。飢。と。ら。ふ。款。ト。や。ど。ん。な。位。の。ま。の。以。歴。く



操さくでも又またつやつやしし奴やつでも日ひよよにに度どはは女に不ふどどづづ。夫そののの飢う  
 ととのの夫その大たい欲よくががササアアくくそそろろのの命いのちとと名などどとと何なにもも  
 うう貴たかよよととととととどどよよややららのの後あとががヒヒヨヨカカくくししてて何なにぞぞ持た持も  
 がが熱あつくくるる。そそををががモモウウ 欲よくのの先まききがが足あくくよよののトトヤヤ。そそをを  
 ううくく時とき刻くわくががううつつとと後あとにに息いきががせせららくく仕しらら眼め  
 ががららううつついいううししてて。あありりややモモウウどどよよももななままららぬぬととよよ  
 中なかににああるるそそのの腹はらにに何なに程ほど深ふか切きるる親おやとと弟あにがが例たとええ居い  
 てもも。ままううとと忠ちゆう義ぎななああままがが衆しゆう人じんああつつててもも。ととそそもも加か替かすす  
 るるゆゆもも出で来こねねばばああみみががううりりににままるるゆゆももああままぬぬああででうう  
 ととかかのの押おし領りやう司しがが廣ひろいい銀ぎん。たたつつとと一ひと人にんととううつつてて居いるる

とと同どうどどみみででづづきき命いのちとと取とれれるるややししぬぬ滅めつススるる  
 ととららううトトヤヤももれれどど。ささううののよよ新しん儀ぎなな。ああややうういいととああ  
 一ひとたたららちちううらら女に戎じゆう河がへへししとと命いのちととすすててももががううりりにに  
 ままるるゆゆももののハハああんんででああらら。ままがが米こめトトヤヤのの麦むぎトトヤヤ乃な豆まめ  
 トトヤヤのの小こ豆まめトトヤヤののつついいふふ穀こくのの類るいハハつつままちちよよづづれれ  
 そのその介かひのの種たね菜さいととのの蒔まききトトヤヤのの胡こ瓜かトトヤヤのの白しろ瓜か  
 トトヤヤのの苗こぼり系けい瓜かトトヤヤののききふふああままがが落おちち落おちち苗こぼりトトヤヤ乃な  
 半ご房ぼうトトヤヤのの芋いもトトヤヤのの苺いちじくトトヤヤのの大だい根こんををううりりトトヤヤ  
 ぞぞううりりももややぬぬぞぞ。そそのの時ときののゆゆののゆゆののググ出でてておおののままくく  
 がが命いのちとと捨すて鼻びのの下した乃な世よ定さだむむととびびははぞぞううままららぶぶととおお

肴さん方もねおも不忠候な命とたもけられ部して  
 活て居る人のトや。それホ又アノ大根とらよりのハ漢土  
 でハ人參といふト申すのひまじんが野果物の惣大根とま  
 二乃ハ料理も大根が虫絲バ細のねげなごころのハ廣  
 大なる徳とそあつてこのあまご方分とも高ぶるべ  
 何本の苗でも汲み出来るので世界の細法もる物  
 ゆくその一つの思を養て一切の物の思を起してよる  
 の意好法沙乃作文といふかた。あんとマアさういふと  
 あうごころすトやごころもやぬう。それうう又あう  
 ハ物やう居申す鴨やう。黄鷄やう。さぬぐのるご

て人乃あふ命とあまごころ又毎朝く海河うう川あげ  
 らう救方の魚でも考くこつらうト申せ流かみふ  
 アノ申すの。押へ命と取くこつらう。あれが。らんま申す  
 さんごころやうとらう。ホが身がううにまかしのトや。さう  
 ころいふをそれごころを物くの。何ううまくと其れハ  
 ぬくとトやぞ天の物と申せおころふ流ぐとあの彼がたあ  
 のころハまかして申せおころのでハおつけきと大ハやう  
 申す。小ハ大ハ制せううが自化の及理で申す  
 物けられて居る人のトや。さう又申す。さうと申たがらん  
 け物おころの思を大極あうごころすトや。あ

うろく押りのしと実小罽がうろくまねぞねまゝ二まね  
 押あかされし凍つるうろくもあつて少飲小出今も  
 紙でも今ハ取まゝやうしねぞ。その時ハ又伸トヤの盤  
 トヤの毛織トヤの紙子トヤのこりよそのぞらる  
 中うねと現しき出で人の乃小命とす。その大飲とせ  
 つで是る是とアノ毎ま 出来る縁あるぬも考て  
 心らうト。せらうく是し白いのと。うろくこりよ  
 しと押とヤア人小振しれ赤生しとておのやア人  
 小振しきしとつ少あさん方や私ホが骸一まを  
 是せて居る実く一世の是せて得でらん縁来うかと

やうで主の糸末届ハ所系にきて得の仍撲真禪一  
 も當てハおぬ又盤おとりよものハ人乃是とけ一牧小  
 八百に千何百しりの命と取し縁ハ出来ぬし。いひす  
 ぐさうりんと小袖一牧うり表中の縁うり系うり  
 何十万の命とある中う知ませんが何とマア不使  
 そのてハ出来たりませぬ列て出たぬ女中さしハ  
 としと心考くろこるがトハ扱又三毒目の飲とつハ  
 取るや。ちる相しけかしてと打きして驚れ死でも  
 うやうしねとこら山小出まゝ木の木トヤの杓乃木  
 トヤの榊トヤの持トヤのしよ。さぬぐの大本人

心學道言 卷中

四編 九

のあふその身と切き。河の中りに柱よめくう鴨居よ  
 めくうお居ふめくう柱板にめくうて。その大款  
 を退払い雨乃ある目も風の教も世とあり樂くよ藤  
 記とさせて異すはげ何とマア有りうもふもや世  
 づきせぬう古款お

天地の中ふとくるまも本と神乃海安とんつとせれよ  
 さう眼を注きてえんをさるしアノ一巾の程でも大権  
 ありがくいのとやあいアノ柱が世屋板と持ち居  
 てらまやねと世衆とんぐやうとくアノ代女  
 に権やあらうやちりね。さう何とく大権やうとん

ふとやあるまのヤコレ紙ぞそや。かろうに來ぬ。地を  
 ハモウゑおろく。のこので居るうけ骸が折るやうか  
 に。まもく事の利ね奴もトやうとく帯住。小云  
 だらうでやうやういふであらうアノとんつとせれよ  
 言もつとん。そのとん結全おすの只であのマア  
 ののと年中かこつて居て異る。まうとんやアノ柱  
 なるのふとやあいとん。一切お物げ。まんま  
 乃なめ命と捨る。どのの中する。まうのふお三どの  
 でも摺鉢一味増とて握養で。まうてつらうと二  
 づんも。つとん。まハ世中うにあう。やうとん





ら。むうのうう又美賣が魚籠へ魚をひて網ヨウ網と  
 とつてまうり。かの柁の葉をひてつひまはハコウを  
 柁の葉ハ幾等うらつひまはと柁の葉賣が。うらや一柁  
 がハ火トやとつひまはッリヤめらさうまを賣柁の葉  
 は又おまけよと。つひまはとらイヤそれで、換がゆく  
 とつひまは ナニ 換がゆくもの。そうやア おうう何お  
 どの柁の本乃葉と只で取てまこののであらうよがし  
 つひまはとら柁の葉賣がつひまはハ、は柁の葉ハ  
 山のよへ付て只であてまこのトやが。さうつひ  
 しやまハ柁の。そこふ擔でひなる網も只であらうよ

が。つひまはとらこれハ魚賣ハ火ト後とまナニハ網と只  
 であらもの。うらやア同座うう滑てまこのトやとつ  
 ひまはと柁の葉賣がつひまはハこの同座ハ何所う  
 持てまこのトやアおまはとら漁人が持てまこのトの  
 漁人ハ又何所ううらまはとらやア海ううらまは  
 まこのその海ハ全網でもいきてまこのうらと。つひ  
 まはとらイヤおまはとこのトやとらうらとげら。かん  
 ちもしうら法トやまはとら網ハ何賣トやの何百ト  
 やのとつひまはとら。その何賣も何百文も何人うら  
 らて取るので海や網ハそ文も。うらやせぬまのた





初場とぐつと下げ父母金とく之を生子金と  
して之と海江と孔子探のあちせらまきさうあもん  
もあしうしてあより中うあ疵ハ何くさあ親ハ孝  
まぐハ忠史婦のるハ和合ハ兄弟の間ハむい  
ト。その外世間の交アヤ家業の勤めも法分  
疵のあい中ハ代呂物にまてへるがむ要でやなり  
まハ中ら一がく何ぐりませ

後席

扱若席も脱く心ころー中ハとろり人ハ万物ハ  
靈しうして一切美拙の中ハ親玉なや猪とハ遠い

まはろー一切のもろく命を備よ法身に名法をー  
飲つー喰はつー思つー。まどそのろく不眠も  
えつー耳まらつー臭ハ嗅つーいへる  
法くしる実ハ自由法く結縛づー乃押鎖  
司とのよりの也下度そまけ身の勤めも万物に  
務まろ天の生も乃心とけつ死親ハ孝君ハ  
忠史婦ハ和合ハ兄弟ハ睦中トクー他人の交り  
ま法実とまろつと交るのみ倫の法ハあつ及ハ  
バ士ハ士の及とつとあて世界とたまけ農人ハ農  
人の道をほとめて世界法たまけ職人ハ職人ハ

人の商人等共ハ皆其出家ハ亦家と認むるを  
の乃と信やめて其世界とおたがひふ助け合縁を  
ぢぢぬらめぞ心弁りまはし道と知らぬと。たまたけ  
ごころのトやうい前も心もなる一トとやう 畜生  
よりハ。ちるうに劣とめの子あらう親ハ不孝と  
り主人ハ不忠とあらう夫婦げんくはあたらう  
才者んくはあたらう唯をつらう人と信一とらう  
釋とさぬくの悪いものとして大なる世界の妨げ  
そらうらう ソコデ むらト乃聖人が海くそれを心教  
以てさま契として司徒たらしむとつて凡世人

の中うらう人乃其と明らめと契とらう人と擇び出  
して世との人一人の道を押へる司徒とつて官とつて  
信け教ふる人倫成以まらうとつて。まらう人の交りまらう夫  
ノの次第乃らうらうとつて。心かしくらうまらうとつて。心  
かたその人倫と一人乃序とやけらうらう。ひらうらう  
とつて。人乃交りまらう。それくの次第のあるらうとつて。さ  
まらう。その又、心身とつて。ハ交りまらうとつて。何らう。父子  
親やう。君臣義あり夫婦別やう。長幼序あり  
朋友信やう。とつて。よの五ツトやけ。中らう。父子親やう  
とつて。ハ。教子ハ固より血肉一筋のもの也。心は



るゆくそのくわりのをのつてこち事廿二は孝  
 の中にも出て居り申んが親父子親ありと申  
 とらりて親子の全作終も世中うにかけられは  
 ぬものといへばそのあはれと強きとに  
 雲井より若る不かりあるおと子とらたれも  
 扱す君臣義ありといふは主従ありと他人と他人の  
 奇合也相たし不義理といふものと云きていふぬ  
 といふことや。その義理といふは主と主人たるもの  
 といふ人お我れと主人と。たのたまはるものるに  
 てもその義理といふをきんどのをいふは

子れごとくに可きづつてごよぞ我れその  
 中より未そのもの身のまやうと心と海とつ  
 て中る。そまう主人たるもの義理といふもの  
 といふ後ろりの海淵明といふ人に我れと修行の  
 に別荘一人修させて自炊させて盡きとて  
 年も逃くをくもあつて来まはすか悉く  
 かる。我子の自炊と不便とに思われ一人  
 の小男と抱つてやれまはれ子への  
 ままの書簡の女に汝且夕之費自給為難今遣  
 此力助薪水勞亦人子也。可善遇之と云くや

ちうとげる。その意い。そあつてもむごら六朝夕の念のて  
 自終いせらるるハ。あんげ。ゆり。ゆり。今。小男と一  
 人かくて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 ありて。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 せ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 子トや。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 方と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 かく。その。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 ろ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 何り。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

の君と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 心と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 ど。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 あ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 扱。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 あ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 代。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 その。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 あ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 さ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



天はすくものあなすて思ふ内はらるる水は軽も濁る  
 扱中と夫婦別つらとらへ夫婦も前より後と同中  
 一人同士の下うやいふまゝも是なりと陰と陽とが合  
 のトや也。てうと水と火と。ようりの中うるまのトや也  
 トてあゝと火はえ来中此。とるのの中うにゆりよけま  
 アハ中のりるのトやあゝ中乃終らるのトや。いせら  
 色は陰と陽と裏と表でえが二体のりの也。一ツあゝ  
 けりすと。とんと一ツあゝて仕器その能授ハ水と火  
 と一ツあゝあゝてあゝらう。水の方乃勢がつらうと  
 火の方此勢がつらうと。その弱い方の火がたうらぬ

消てチユウとらうてあゝの方へ送へて仕もい亦火の方乃  
 勢が強ふと水の方乃勢が弱ふと。その弱い方の水が  
 又チユウとらうて火の方へ送へて仕も。り。又水は勢  
 と火の勢が同ト中うて一ツあゝあゝ今とら。そのとら  
 がうく。パチく。雷の鳴中うにあゝて大板やうやうい  
 トやうい夫婦。てうとどその中うるまの。でえらい  
 あんまう中の終とるりの也。何のゆも。たかひい  
 くらややすうててうて用捨を急とら。のゆと仕も  
 せぬう。細く。のつひと。つあう。あゝい。あゝい  
 は合中うにあゝて終ら。夫婦げんく。か出来とら。去

の居ぬのこつよ中なる。さやぐのものをいひるまぐあくる。  
 そとで爰夫婦の間に有別とつてあつて別つて  
 夫婦ハそまぐの居別のあるものトヤとらふこで  
 先男ハ男らうして所の執りて先一ト女ト女  
 らうして内乃執りを先一ト扱物々のあはれ  
 ましかゝるままづひすて。たぐひと心はつひと仕  
 あつて礼儀とふいし仕あり縁ハあゝぬりのトヤと  
 つるすトヤ。そのあつらと縁と古教ハ  
 仍かよふ心回ると男ぞつとほおれ結とて帯はぬ一扱のるも  
 なる縁まはるまバ夫とけの苦勞ハ女房ハあれバ女房だけ

の苦勞。銀とそれくの苦勞ハあるもの也。縁ハまら  
 女房乃心と執りいやらせて。さうしてやう又女房ハ夫乃  
 ららるとおとひやらせて。あつてけ縁切とてさなわらぬ  
 ものではなうまはれ。そのうちあつても中々にまはれ  
 の中なるもの女房ハ氷の中なるもの也。そのあはれ分  
 夫乃夫の勢ハまきりてゆう縁ハ何するも縁ハ仕やね  
 とのトヤ。さうや月くの舎りのごらうでも考ぐて  
 づらうト火とつて氷の方と割さると縁ハ切もよく  
 縁もあつる飯も焚き煮る業もあつる縁もつるれは酒の  
 るもあつるトて。どのせうなる也。あてもあつるをれど





